



## 故 高見沢徹一郎先生を偲んで

平成5年4月14日午後3時すぎ頃、高見沢徹一郎先生のご訃報の電話が入りました。一瞬茫然とし耳を疑いましたが令婦人の耐え得ない涙声は、先生は心筋梗塞により静かに旅立たれたことを知らせていました。

3月31日をもって定年で九州大学教授を退官され、都城工業高等専門学校校長として着任された矢先のことでした。

先生は昭和4年4月29日東京のお生まれで、旧制山口中学、高等学校を経て昭和28年3月東京大学理学部化学科を卒業後、富士電機製造株式会社に入社されました。しかし、学問研究の場での生活を捨て得ず2年後辞職され、東京文理科大学研究科に入学、生涯の師と仰がれた小寺明教授のもとで高分子物理化学の研究を始められました。昭和34年東京教育大学理学部助手に採用され、35年九大工学部講師、翌36年助教授に昇任され、高分子結晶モデル化合物の相転移および分子形態に関する研究、高分子ガラス転移および圧力効果の研究テーマに研

鑽を積み、昭和62年教授に昇任、応用理学教室物理化学講座および高分子材料物性学講座を担当され、退官まで33年の永きにわたり教育と研究に専念されました。

学外の活動としては、日本熱測定学会幹事、高分子学会九州支部長、日本化学会幹事等を歴任し、学会の発展に寄与されました。特に第26回熱測定討論会では運営委員長としてご活躍、先生と共に準備などに立ち働いたことが昨日のことにように思い出されます。何事も適当に済ませることの出来なかった先生、あまりにも純粋で真面目な方であったことは、多くの希望と期待をもって着任されたのですが、体は蝕まれていたのでしょうか。本当に残念でなりません。多大なご教示ありがとうございました。

先生、心残りはございませうが、どうか安らかにお眠り下さい。心よりご冥福をお祈り致します。合掌

(九州大学工学部 占部 美子)

## 「熱測定」編集委員会

(委員長) 脇原将孝

(編集委員) 脇原将孝, 阿竹 徹, 城所俊一, 西成勝好, 橋本寿正, 藤枝修子, 村上幸夫

(地域編集委員) 伊佐公男, 占部美子, 長尾眞彦, 八田一郎, 古市隆三郎, 横林洋子

熱測定 Vol. 20, No. 2 1993  
昭和52年5月27日 第4種  
郵便物(学術刊行物)認可

平成5年4月25日 印刷  
平成5年4月30日 発行

発行人 日本熱測定学会 菅 宏

〒113 東京都文京区湯島 2-16-13 齊藤ビル  
電話 03-3815-8514 振替 東京9-110303  
FAX 03-3815-8529